



## 2. 2022年度の事業の概況

2022年度の事業の概況 .....	18
トピックス .....	21

# 2022年度の事業の概況

## 金融経済環境

2022年度の世界経済は、米欧等の中央銀行によるインフレ抑制に向けた金融引き締めが継続する中、比較的底堅く推移したものの、金融市場は各国の経済や物価の動向、それに伴う金融政策動向により、不安定な動きが続きました。3月には、米国金利上昇の影響で米地銀2行が破綻し、またスイス大手銀行では信用不安から救済合併に至るなど、金融システム不安が急速に高まり、経済の先行き不透明感が強まりました。

国内経済は、年度前半はウィズコロナ進展で緩やかに持ち直したものの、その後は、円安進行や物価上昇を受け、企業活動や個人消費に停滞感がみられましたが、徐々にコロナ禍からの社会経済活動の正常化により回復傾向となりました。実質GDP成長率は、4-6月期の前期比年率+5.6%から、7-9月期△1.5%、10-12月期+0.4%と推移し、1-3月期は+2.7%となりました。日本銀行は、市場の金利上昇観測が強まる中、12月の金融政策決定会合にて市場機能の改善を目的としてイールドカーブ・コントロールを修正し、長期金利の変動幅を±0.50%程度に拡大しました。

米国経済は、雇用情勢は堅調に推移したものの、インフレ高進に伴う購買力低下、金融引き締めに伴う住宅市場の低迷等を受け、拡大ペースが鈍化しました。FRBは2022年3月よりインフレ抑制のた

め利上げを継続し、2023年3月までの利上げ幅は4.75%に達しました。3月には地銀2行が破綻し、FRBはインフレと金融不安双方の鎮静化が求められる状況となりました。欧州経済は、ウクライナ情勢緊迫化に伴う資源価格上昇が直撃し、スタグフレーションのリスクが高まりました。インフレ加速を受け、ECBIは7月にマイナス金利を解消のうえ、9月以降も利上げを継続しました。中国経済は、上海等のロックダウンの影響で減速し、2022年実質GDP成長率は前年比+3.0%に減速しました。政府が12月にウィズコロナ政策に転換したことで、持ち直しの兆しをみせています。

## 2022年度の決算の概況

### 資金調達の状況

2022年度末の資金調達額は9兆1,198億円、前期末比1,024億円の減少となりました。

預金(譲渡性預金を含む)は、期末残高7兆2,395億円、前期末比3,393億円の増加となりました。また、期中平均残高は7兆3,310億円で、前期比2,106億円の減少となりました。

〈ろうきん〉からの定期預金は期末残高5兆3,371億円、前期末比1,015億円の増加となりました。

〈ろうきん〉以外のお客さまからお預かりする確定拠出年金定期預金は、期末残高1兆263億円、前期末比671億円の増加となり、譲渡性預金は、期末残高

2,367億円、前期末比118億円の増加となりました。

要求払預金は、期末残高5,967億円、前期末比1,588億円の増加となりました。

短期金融市場からの調達は、資金繰りや効率運用を目的に取り組みました。借入金、共通担保資金供給オペに加え、被災地金融機関支援オペ、貸出増加支援オペに取り組み、期末残高は5,206億円、前期末比3,673億円の減少となりました。また、期中平均残高は6,437億円、前期比5,709億円の減少となりました。

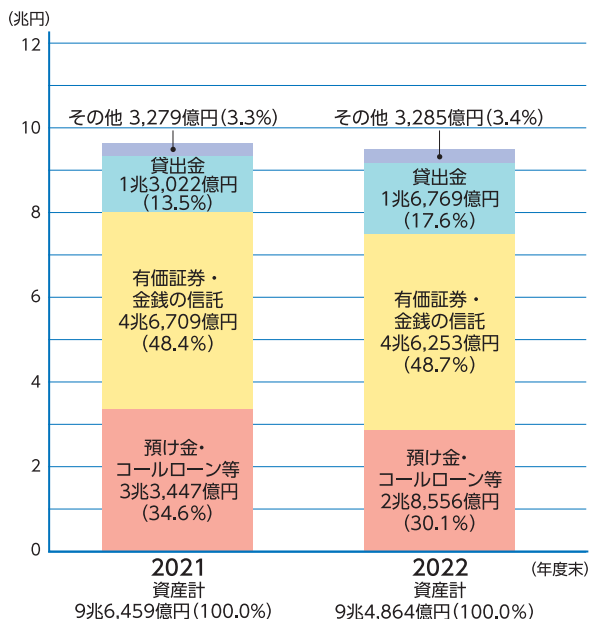
現金担保付債券貸借取引は、裁定取引の一手段として行い、期末残高は1兆2,596億円、前期末比1,744億円の減少となりました。また、期中平均残高は1兆2,335億円、前期比1,604億円の減少となりました。

コールマネーは、裁定取引の一手段として行い、期中平均残高は845億円、前期比939億円の減少となりました。

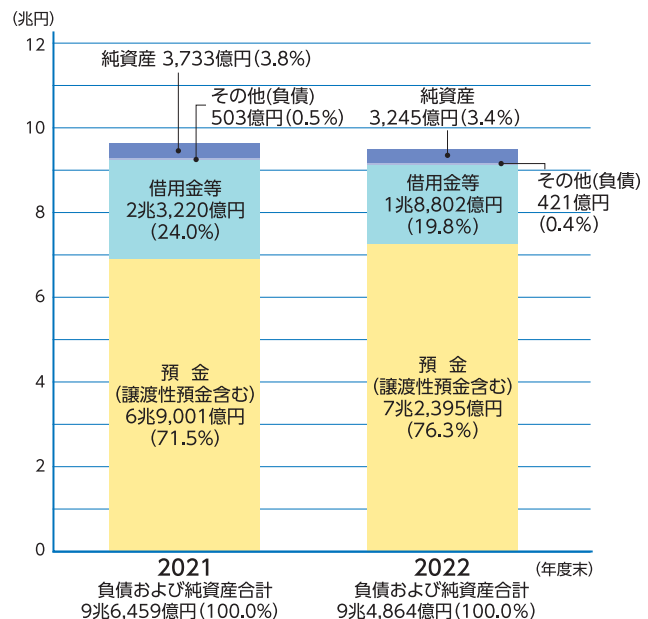
### 資金運用の状況

2022年度末の貸出金残高は1兆6,769億円、前期末比3,747億円の増加となりました。会員貸付は、平成28年熊本地震による特別貸付・日銀資金供給見合い貸付に加え、労働金庫事業性資金融資サポート貸付により、残高は5,804億円、前期末比1,394億円の増加となりました。会員外貸付の残高は1兆965億円、前期末比2,353億円の増加となりました。内訳は、国に1兆793億円、独立行政法人に146億円、その他25億円でした。

## 資産の構成



## 負債および純資産の構成



短期運用資産(国等への貸付を含む)は、日銀による強力な金融緩和により、ターム物を含めた金利の低位安定が続くなか、国内金融機関とのコールローン取引に加え、国への入札貸付を中心に運用し、期末残高は4兆1,791億円、前期末比1,854億円の減少となりました。

短期運用資産のうち、短期社債については、相場動向や金利水準を見極めながら、信用リスクに留意しつつ運用し、期末残高は2,539億円、前期末比729億円の増加となりました。また、期中平均残高は2,774億円、前期比1,205億円の増加となりました。

短期社債を除く有価証券(金銭の信託含む)は、期末残高4兆3,713億円、前期末比1,186億円の減少となりました。

購入については、それぞれのリスクに留意しつつ、国債・地方債をはじめとする公共債のほか、内部規程に基づく投資適格債を購入しました。

一方、非円金利資産への分散投資を段階的に進める観点から、株式・投資信託やオルタナティブファンド等を購入し、ポートフォリオの充実・強化に努めました。

## 損益・利回りの状況

経常収益は、前期比275億円増加し891億円となりました。

主な要因は、有価証券利息配当金の増加により資金運用収益が前期比12億円増加し413億円となったこと、総合事務センターの物件費の減少等に伴う事務処理受託手数料の減少により役務取引等収益が前期比22億円減少し176億円となったこと、国債等債券売却益が前期比273億円増加し274億円となったこと、国債等債券償還益が前期比5億円減少し2億円となったこと、株式等売却益が前期比16億円増加し23億円となったことです。

経常費用は、前期比286億円増加し787億円となりました。

主な要因は、預金利息の減少により資金調達費用が前期比1億円減少し162億円となったこと、物件費の減少等により経費が前期比27億円減少し226億円となったこと、国債等債券売却損が前期比252億円増加し317億円となったこと、国債等債券償還損が前期比64億円増加し68億円となったことです。

この結果、経常利益は103億円(前期比10億円減少)、税引前当期純利益は103億円(前期比10億円減少)、当期純利益は84億円(前期比9億円減少)となりました。

資金運用利回りが前期比0.06ポイント上昇の0.44%となり、資金調達原価率は前期比0.01ポイント上昇の0.41%となりました。この結果、総資金利ざやは前期比0.05ポイント上昇し0.03%となりました。

なお、受託手数料として回収した総合事務センター経費等を控除した実質ベースの資金調達原価率は0.23%、総資金利ざやは0.21%となりました。

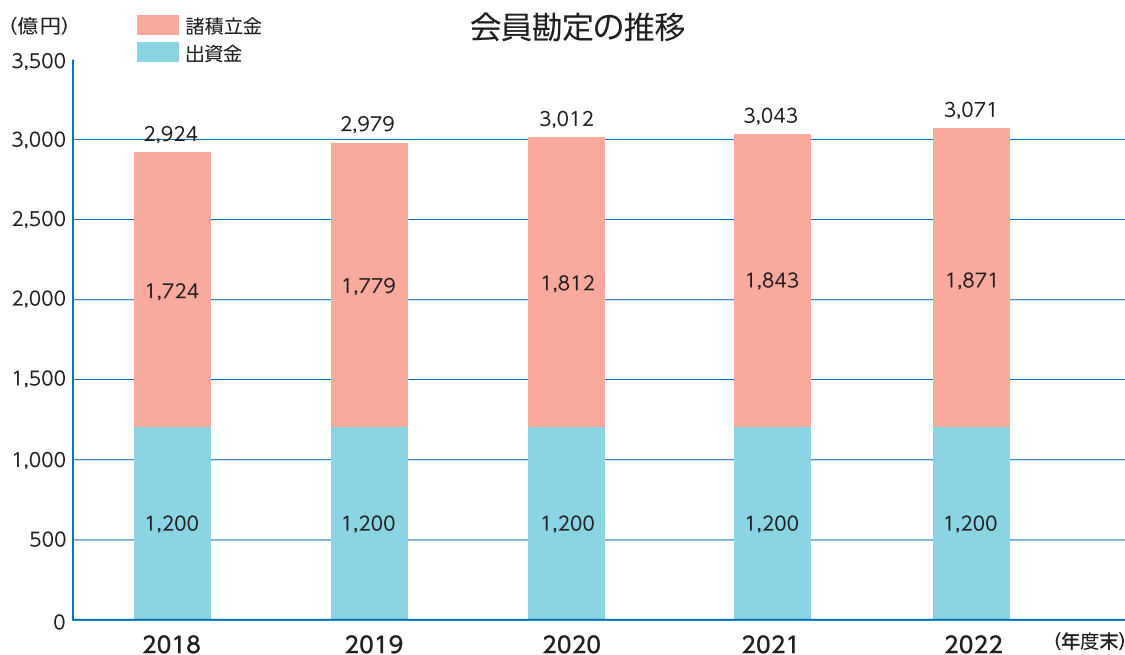
## 格付けの状況

労金連は、「株式会社格付投資情報センター (R&I)」の発行体格付け「AA-」を取得しています。(2023年6月30日現在)

## 純資産額の推移

(単位:億円)

項目	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
出資金	1,200	1,200	1,200	1,200	1,200
諸積立金	1,724	1,779	1,812	1,843	1,871
会員勘定合計	2,924	2,979	3,012	3,043	3,071
その他有価証券評価差額金等	1,133	800	994	689	174
純資産額	4,057	3,780	4,006	3,733	3,245



## 主要な事業の状況を示す指標

(単位:百万円)

項 目	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
経常収益	70,791	64,389	62,002	61,628	89,145
経常費用	57,316	49,964	49,282	50,196	78,797
経常利益	13,474	14,425	12,719	11,431	10,348
当期純利益	10,968	12,110	10,467	9,336	8,409
純資産額	405,761	378,037	400,694	373,353	324,586
総資産額	10,802,430	10,729,415	10,798,325	9,645,905	9,486,491
預金残高(譲渡性預金含む)	7,574,710	7,496,861	7,419,804	6,900,187	7,239,548
貸出金残高	2,612,475	2,546,338	1,966,247	1,302,215	1,676,976
有価証券残高	4,254,112	4,772,696	4,668,421	4,666,000	4,620,379
出資総額	120,000	120,000	120,000	120,000	120,000
出資総口数(口)	1,200,000	1,200,000	1,200,000	1,200,000	1,200,000
出資に対する配当金	1,800	1,800	1,800	1,800	1,800
職員数(人)	414	424	431	426	425
単体自己資本比率(%)	25.77	21.83	21.71	19.50	15.04

(注) 1. 貸借対照表関係の項目については、各年度の期末残高を記載しています。

2. 単体自己資本比率について、「労働金庫法第94条第1項において準用する銀行法第14条の2の規定に基づき、労働金庫及び労働金庫連合会がその保有する資産等に照らし自己資本の充実の状況が適当であるかどうかを判断するための基準(平成18年金融庁・厚生労働省告示第7号)」に基づき算定しています。

なお、労金連は国内基準を採用しています。

# トピックス

## ●「ろうきんアプリ」で残高や入出金を“いつでも・どこでも”スマホでチェック！

「ろうきんアプリ」はスマートフォンで“いつでも・どこでも”、かんたんに残高や入出金を確認できる便利なアプリです。

他にも、入出金明細に使用用途などをメモできる機能や、スマートフォンのカメラを使用した税金などのお支払い、郵送でお届けしていた各種ご案内(帳票)をアプリで確認できる「Webお知らせ」、「住所変更」、お近くの(ろうきん)の店舗での「相談・予約」、(ろうきん)からのおトクな情報のお届けなど、便利な機能がご利用いただけます。

また、2022年7月からは、アプリから普通預金口座の開設を申込みできる「ろうきんアプリ口座開設」のサービス提供を開始しました。(本サービスは一部金庫では提供しておりません)

これまで多くのお客さまにご利用いただいております、「ろうきんアプリ」の口座登録件数は127万件を超えました(2023年3月末)。今後も、(ろうきん)はお客さまのニーズに合わせて「ろうきんアプリ」から各種サービスを提供してまいります。



「ろうきんアプリ」の画面には、残高・明細、ろうきんダイレクト、QRコード決済、税金支払い、Webお知らせ、住所変更、相談・予約、かんたん通帳などの機能が並んでいます。また、「口座開設はこちら」というボタンも確認できます。

**ろうきんアプリ  
口座開設**

「ろうきんアプリ口座開設」とは、スマートフォンと本人確認書類だけで、普通預金口座の開設を申込みできるサービスです。来店不要で、申込みから1～2営業日で口座番号がメール通知されます。

※QRコードは株式会社デンソーウェーブの登録商標です。  
※「かんたん通帳」は株式会社マネーフォワードの登録商標です。

## ●〈ろうきん〉とスマホ決済サービス

〈ろうきん〉は、PayPay、LINE Pay、J-Coin Pay、Bank Payの4つのスマホ決済サービスと提携しており、各種アプリで〈ろうきん〉口座の登録後、財布を持ち歩かずに、〈ろうきん〉口座からの「チャージ」、お店での「支払い」、お知り合いへの「送金」など、便利な機能がご利用いただけます。

スマホ決済サービスへの〈ろうきん〉口座登録件数は、21万件を超えました(2023年3月末)。

〈ろうきん〉に普通預金口座をお持ちのお客さまに、より便利・快適にご利用いただけるよう、今後ともサービス充実に努めてまいります。



スマホ決済サービス紹介ページ  
<https://www.rokinren.com/qr/detail/>



## ●「ろうきんiDeCo」取扱い商品追加！！

iDeCo（個人型確定拠出年金）は、税制優遇を活用しながら老後に向けた資産形成ができる私的年金制度で、「ろうきんiDeCo」の加入者数は2023年3月末現在で27万件を超え、取扱機関のなかでもトップクラスになっています。

2022年10月からは、企業型DC加入者も原則iDeCoに加入できるようになったほか、2023年4月に商品ラインアップに国内と海外の不動産投資信託（リート）を追加し、さらに魅力が増えています。

労金連は、「ろうきんiDeCoスペシャルサイト」をご用意して、加入申込み手続きの電子対応を進めているほか、資産運用アドバイス（ロボットアドバイザー）などのサービスの提供、専用コールセンターによるお客さまの対応など、利便性向上や役立つ情報の提供に努めています。



<https://rokin-ideco.com/>



## ●「ろうきん確定拠出年金定期預金（期間5年・1年）」が残高1兆円突破！！

労金連は、全国の「ろうきん」を代表して企業型確定拠出年金の商品提供機関の役割を担っており、「ろうきん確定拠出年金（DC）定期預金（期間5年・1年）」を提供しています。

この商品は、競争力のある金利や高い信用力を背景に多くの企業から選定いただいており（2023年3月末現在1,260規約、16,868社）、安定的に資産形成できる商品として加入者等にご利用いただいた結果、同時点の残高は1兆263億円まで増加しました。

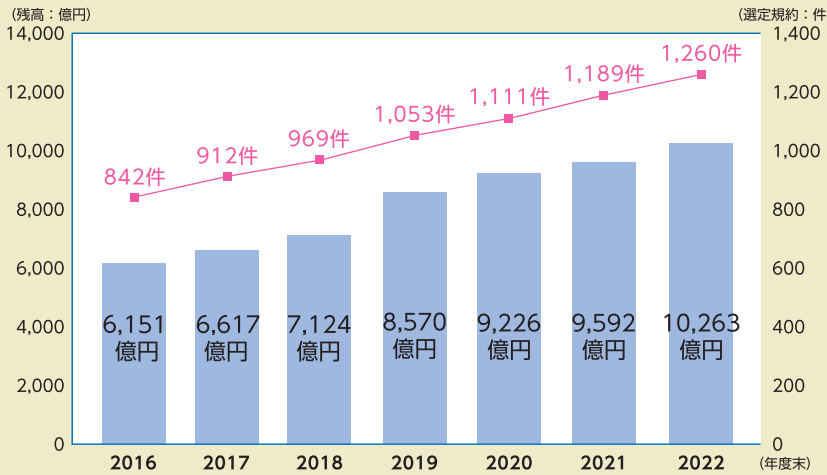
労金連のウェブサイト「ろうきんの勤労者の資産形成に係る役割発揮宣言～企業年金に係る取り組み～」では、本商品のご案内以外に、企業年金の概要や資産運用の考え方、選択制DCやマッチング拠出のシミュレーションなど役立つ情報を提供しています。



<https://www.rokinren.com/kigyonenkin-support/>



## ろうきんDC定期預金残高の推移



**ろうきんDC定期預金**  
期間5年  
最高金利0.100% (変動金利)

**5つの特徴**

- 1 残りある定期預金 年利 **0.100%**
- 2 多くの商品選択：貯蓄実績 残高 **1,026,300** 億円
- 3 高い信用力 格付 **AA-** (Risk)
- 4 抽選なし、全額で利用できる **全てのRKで利用可能**
- 5 引当金の増え続ける **パイオフ制度**

## ●ろうきん財形は選ばれてNo.1

「ろうきん」では、計画的な資産形成や多重債務対策などの「生活応援運動」を展開しており、多くの勤労者の皆さまにその中核的な商品である「ろうきん財形」をご活用いただいています。

2023年3月末現在で契約件数は2,380,511件・貯蓄残高は3兆7,198億円となり、件数・残高ともに業態別第1位となっています。

### ろうきん財形契約件数・貯蓄残高 (2023年3月末)

(単位:件、百万円)

	一般財形	財形年金	財形住宅	合計
契約件数	1,626,509	578,556	175,446	2,380,511
貯蓄残高	2,674,640	791,912	253,312	3,719,865

あなたと財形貯蓄のかけ橋  
未来の自分づくり  
財形貯蓄から始める

人生の3大支出は「住宅」「教育」「セカンドライフ」  
大きなライフイベントに必要なお金はどれくらい？

- 住宅ローン: 約786万円
- 教育資金: 約1,046万円
- セカンドライフ資金: 約1,470万円
- 海外旅行資金: 約26万円
- 結婚資金: 約371万円
- マイホーム購入資金: 約264万円

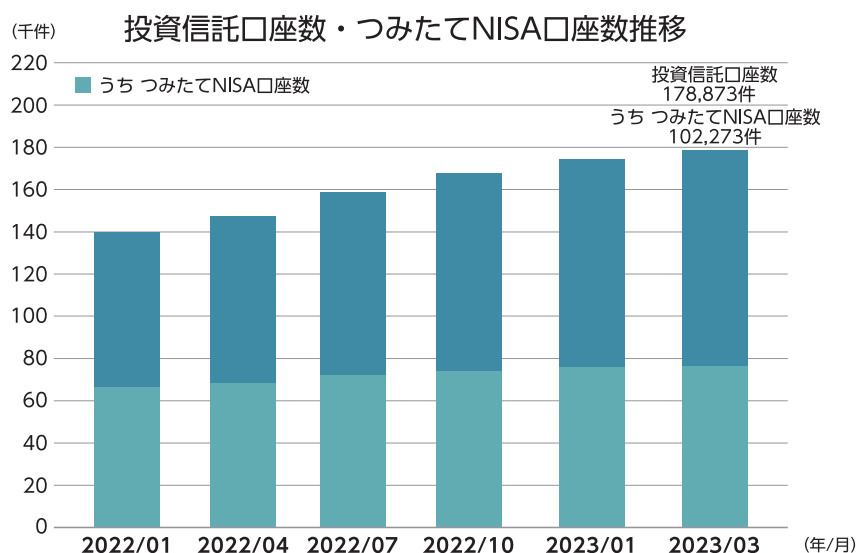
ろうきん財形なら元本保証で安心  
ろうきん財形の3商品

- 一般財形**: 元金・利息ともに元本保証。貯蓄実績も豊富。
- 財形住宅**: 住宅ローンと連動して利用可能。返済に充てられる。
- 財形年金**: 年金受給まで元本保証。将来の生活資金に活用できる。

## ●ろうきんのつみたてNISAで資産形成！！

〈ろうきん〉では、お客さまの様々なライフプランに応じた「つみたてNISA」の活用をご提案しています。資産を形成していくお客さまのニーズにお応えする中で、2023年3月末現在で投資信託口座数178,873件のうち、つみたてNISAの口座数は102,273件を占め、毎年、取扱いが増加しています。

また、2024年1月からNISA制度の抜本的拡充・恒久化が図られます。〈ろうきん〉は「新しいNISA」に関する情報や商品・サービスの提供に努め、お客さまの将来に向けた資産形成を応援します。



## ●ろうきんiDeCo WEB申込みサービスの利用対象者拡大！！

「ろうきんiDeCo」の新規加入や資産移換の申込みは、インターネットでお手続きいただけます。2022年の確定拠出年金法改正施行に伴う加入要件の緩和にあわせて、60歳以上65歳未満の方や企業型DC加入者の申込みにも対応していますので、便利で簡単にお申込みいただけます。

〈ろうきん〉は、今後もお客さまのニーズに応えるウェブコンテンツを提供してまいります。

